

## 資料

## 『湖畔の声』に収録された中国関係記事目録（稿）

——戦後編——

金丸 裕一

## はしがき

この目録は戦後刊行分の『湖畔の声』から、中国（香港や台湾も含めてあるが他意はない）に関する記事について整理したものである。周知の通り、『湖畔の声』は1912（明治45）年7月に滋賀県蒲生郡八幡町（現在の近江八幡市）において創刊されて以来、1944年から1946年にかけての敗戦直前から戦後混乱期、及び発行母体たる近江兄弟社の経営状況が不安定化した1975年、及び1979年から1980年にかけての一時期を除き、ほぼ毎月一回のペースで刊行され、現在では凡そ110年の歴史を有する定期刊行物である。

その性格は、近江ミッションという地域密着型基督教宣教団体による機関誌であるのだが、同時に W. M. ヴォーリズとその門下生による建築や製薬などのビジネスの在り方、また医療・教育を通じた社会貢献活動の一環を伝える役目も果たしている。だが残念なことに、所蔵されている図書館やデジタル公開されている部分が少ないため、これまでは「史料」としての利用が少なかつたように思われる。

編者は曾て、滋賀県出身で県立膳所中学時代からヴォーリズの薫陶を受けた牧師・清水安三と中国との関係を考察する論文を執筆した過程で、この雑誌の戦前・戦時に刊行された部分について、近江八幡市立図書館、及び神奈川大学横浜図書館において集中的に閲覧した。その際、やはり時勢の影響は地方社会にも及び、朝鮮や台湾などの外地、また満洲や中国、後に所謂「大東亜共栄圏」への関心が次第に高まって行った姿を確認することができた。そして登場人物も著名な人々というよりは、寧ろ地方に在って実直に生き抜いた方々を中心としており、その意味においても地味ながらも非常に親近感を覚える雑誌だったのである。

今回はまず、分量的な関係もあって、1946年7月以降に刊行された部分について、簡単なリストを作成した次第である。これらの言説を戦前・戦時期に記されたそれと比較する作業を通じて、単なる回想といった次元を超えた、環境によって変化する人間の在り方にも肉薄することができるのではなかろうか。いずれにせよ、110年間に互って地方社会において作成され続けた稀有の素材として、様々な分野からの活用を期待する次第である。

最後に、『湖畔の声』戦後版の所蔵状況について、簡単に紹介したい。

管見の限り、最も体系的に所蔵されているのは、近江八幡市立図書館である。同館ホームペー

ジにある「近江八幡市歴史浪漫アーカイブス」において、1948年以前の所蔵分が公開されている（<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Home/2520405100/topg/kohan.html>：最終閲覧日は2021年8月15日）。1949年1月以降についても、1979年から1980年に刊行された計算になる749号～760号が欠落しているものの、他は凡て閲覧可能であった。尤も、当該部分のうち749号～758号について国立国会図書館サーチは未刊行であったと説明するので、略々全冊を網羅していることが判明した。なお、近江八幡市立図書館において所蔵されない759号と760号は、共に滋賀県立図書館において保管されており、閲覧に支障はない。

その滋賀県立図書館では、1948年8月号以降の所蔵が確認できるも1955年刊行分までは欠落も多いが、それ以降については1975年と1976年の二年分を除いて、概ね所蔵されている。京都府立図書館の場合、1951年から1963年刊行分の一部が保管されている。更に、国立国会図書館東京本館においても、1950年11月号（424号）以降について、1954年1月号（462号）、及び1957年2月号（499号）の欠本が報告されるも、他はほぼ完璧にそろっていることが分かる。

単なる宣教雑誌の枠を超えて、『湖畔の声』に記された各人の思いが歴史研究のなかで甦ることを願って止まない。また、編集上の遺漏や誤記について、利用者諸賢によるご指摘をお願い申し上げます。

## 凡 例

1. 刊行年、著者名、記事名、雑誌名、号数、発行年月日、頁数の順に配列した。
2. 表記にあたっては原文の書き方を尊重して、誤植の場合も訂正していない。
3. 中国に言及した記事を中心としたが、生涯に亙りこれと格闘した清水安三については、基本的に全てを採録した。

## 目 録

### 【1949年】

清水安三「中江藤樹と基督教」『湖畔の声』1949年11月号（412号）、1949年11月1日、12～13頁。

### 【1950年】

内山完造「飯碗革命」『湖畔の声』1950年4月号（417号）、1950年4月1日、10～11頁。

内山完造「中国人の時間」『湖畔の声』1950年9月号（422号）、1950年9月1日、13～15頁。

内山完造「吉田さんを憶う」『湖畔の声』1950年11月号（424号）、1950年11月1日、8～9頁。

### 【1951年】

内山完造「くわあつ（瓜子）」『湖畔の声』1951年8月号（433号）、1951年8月1日、9頁。

内山完造「吉田さんを憶う」『湖畔の声』1951年11月号（436号）、1951年11月1日、8～9頁。

## 【1952年】

織田金雄「神を知る悦び」『湖畔の声』1952年1月号（438号），1952年1月1日，1～5頁。  
清水安三「新英州の一家庭」『湖畔の声』1952年5月号（442号），1952年5月1日，4～7頁。  
R・B・マニカム「世界教会運動と東亜の教会」『湖畔の声』1952年6月号（443号），1952年6月1日，1～3頁。

## 【1953年】

内山完造「神がお許しになった新中国」『湖畔の声』1953年6月号（455号），1953年6月1日，1～4頁。  
「近況ろく」『湖畔の声』1953年9月号（458号），1953年9月1日，30～32頁。  
清水安三「藤樹研究の収穫」『湖畔の声』1953年11月号（460号），1953年11月1日，1～3頁。

## 【1954年】

多和田賢一「中国より新中国へ」①『湖畔の声』1954年12月号（473号），1954年12月1日，17～19頁。

## 【1955年】

多和田賢一「中国より新中国へ」②『湖畔の声』1955年1月号（474号），1955年1月1日，15～17頁。  
多和田賢一「中国より新中国へ」③『湖畔の声』1955年2月号（475号），1955年2月1日，18～20頁。  
多和田賢一「中国より新中国へ」④『湖畔の声』1955年3月号（476号），1955年3月1日，18～20頁。  
多和田賢一「中国より新中国へ」(完)『湖畔の声』1955年4月号（477号），1955年4月1日，14～16頁。  
H「日中を結ぶ人 内山完造先生の印象」『湖畔の声』1955年8月号（481号），1955年8月1日，10頁。  
清水安三「ニグロとの混血児」『湖畔の声』1955年8月号（481号），1955年8月1日，11～13頁。

## 【1957年】

清水安三「村田幸一郎君を思う」『湖畔の声』1957年2月号（499号），1957年2月1日，5～6頁。  
清水安三「藤樹先生行状聞伝」①『湖畔の声』1957年3月号（500号），1957年3月1日，17～20頁。  
清水安三「藤樹先生行状聞伝」②『湖畔の声』1957年4月号（501号），1957年4月1日，13～17頁。  
清水安三「藤樹先生行状聞伝」③『湖畔の声』1957年5月号（502号），1957年5月1日，18～21頁。

- 清水安三「藤樹先生行状聞伝」④ 『湖畔の声』1957年6月号（503号），1957年6月1日，14～17頁。
- 清水安三「藤樹先生行状聞伝」⑤ 『湖畔の声』1957年7月号（504号），1957年7月1日，20～23頁。
- 清水安三「藤樹先生行状聞伝」⑥ 『湖畔の声』1957年8月号（505号），1957年8月1日，17～21頁。
- 清水安三「藤樹先生行状聞伝」⑦ 『湖畔の声』1957年9月号（506号），1957年9月1日，19～23頁。
- 清水安三「藤樹先生行状聞伝」⑧ 『湖畔の声』1957年10月号（507号），1957年10月1日，15～19頁。
- 清水安三「藤樹先生行状聞伝」⑨ 『湖畔の声』1957年11月号（508号），1957年11月1日，18～22頁。
- 清水安三「藤樹先生行状聞伝」（完） 『湖畔の声』1957年12月号（509号），1957年12月1日，19～23頁。

## 【1958年】

- 清水安三「信仰実話 祈は応えられる」 『湖畔の声』1958年1月号（510号），1958年1月1日，5～8頁。
- 清水安三「ウィリアム メレル ヴォーリズの精神」 『湖畔の声』1958年2月号（511号），1958年2月1日，5～8頁。
- 清水安三「中江藤樹の教」① 『湖畔の声』1958年3月号（512号），1958年3月1日，5～8頁。
- 清水安三「中江藤樹の教」② 『湖畔の声』1958年4月号（513号），1958年4月1日，5～7頁。
- 末包敏夫「中共治下の基督教界」 『湖畔の声』1958年4月号（513号），1958年4月1日，21～23頁。
- 清水安三「中江藤樹の教」③ 『湖畔の声』1958年6月号（515号），1958年6月1日，20～21頁。
- 清水安三「中江藤樹の教」④ 『湖畔の声』1958年7月号（516号），1958年7月1日，8～11頁。
- 清水安三「中江藤樹の教」⑥ 『湖畔の声』1958年9月号（518号），1958年9月1日，21～23頁。

## 【1959年】

- 塚本助太郎「殉教者内山完造氏の死」 『湖畔の声』1959年11月号（532号），1959年11月1日，21～23頁。

## 【1960年】

- 海老沢宣道「香港に於ける教界の姿」① 『湖畔の声』1960年8月号（541号），1960年8月1日，14～15頁。
- 海老沢宣道「香港に於ける教界の姿」② 『湖畔の声』1960年9月号（542号），1960年9月1日，28～29頁。

## 【1962年】

高橋虔「湖国出身の伝道者 片山幽吉牧師」『湖畔の声』1962年4月号（561号）、1962年4月1日、26～28頁。

## 【1968年】

錦織（恒夫）「台湾紀行 空に架かる北斗七星—教会から教会へ—①」『湖畔の声』1968年10月号（639号）、1968年10月1日、13～17頁。

錦織（恒夫）「台湾紀行 湖畔に架かる虹の橋—信仰は生きて流れる—②」『湖畔の声』1968年11月号（640号）、1968年11月1日、16～20頁。

錦織（恒夫）「台湾紀行 蝶は群れ飛ぶ—創造美は溢れる—③」『湖畔の声』1968年12月号（641号）、1968年12月1日、19～23頁。

## 【1969年】

清水安三「(イエス伝十講 その一) 遠い後の時のこと」『湖畔の声』1969年4月号（645号）、1969年4月1日、16～19頁。

清水安三「イエス先生の復活—イエス伝十講義—その二」『湖畔の声』1969年5月号（646号）、1969年5月1日、15～17頁。

清水安三「男の花道ヴィアドローサーイエス伝十講 その3」『湖畔の声』1969年6月号（647号）、1969年6月1日、20～23頁。

清水安三「大和魂の象徴十字架—イエス伝十講 その四」『湖畔の声』1969年7月号（648号）、1969年7月1日、25～28頁。

清水安三「イエス先生の習性—イエス伝十講 その五」『湖畔の声』1969年8月号（649号）、1969年8月1日、26～29頁。

清水安三「私は神癒を信ずる 新興宗教対策—イエス伝十講 その六」『湖畔の声』1969年9月号（650号）、1969年9月1日、12～15頁。

清水安三「私は奇跡を信ずる—イエス伝十講 その七」『湖畔の声』1969年10月号（651号）、1969年10月1日、21～24頁。

清水安三「イエスの周囲の女性—イエス伝十講 その八」『湖畔の声』1969年11月号（652号）、1969年11月1日、24～27頁。

清水安三「バプテスマのヨハネ マルコによる福音書一章二節～一五節—イエス伝十講 その九」『湖畔の声』1969年12月号（653号）、1969年12月1日、20～22頁。

## 【1970年】

清水安三「イエス先生の私的生涯—イエス伝十二講（その一〇）」『湖畔の声』1970年1月号（654号）、1970年1月1日、27～29頁。

清水安三「神の国—イエス伝十二講（その一一）」『湖畔の声』1970年2月号（655号）、1970年2月1日、22～25頁。

清水安三「神—イエス伝十二講（その一二）」『湖畔の声』1970年3月号（656号）、1970年3月

1日, 32～35頁。

関根文之助「台湾伝道の旅—全土を一周して」『湖畔の声』1970年5月号（658号），1970年5月1日，23～25頁。

洪炯圭「台湾伝道旅行 おちぼひろい」『湖畔の声』1970年11月号（664号），1970年11月1日，24～26頁。

洪炯圭「台湾伝道旅行 おちぼひろい—その2」『湖畔の声』1970年12月号（665号），1970年12月1日，26～28頁。

#### 【1971年】

木村茂三郎「南アジアを旅して」『湖畔の声』1971年6月号（671号），1971年6月1日，4～7頁。

奈良伝「金婚夫婦の台湾旅行」『湖畔の声』1971年8月号（673号），1971年8月1日，12～13頁。

#### 【1972年】

清水安三「思い出の一つ二つ」『湖畔の声』1972年8月号（685号），1972年8月1日，11～12頁。

清水安三「吉田悦蔵と近江兄弟社」『湖畔の声』1972年11月号（688号），1972年11月1日，7～9頁。

#### 【1973年】

清水安三「中日共に遠交近交を国是とすべき」『湖畔の声』1973年5月号（694号），1973年5月1日，4～6頁。

清水安三「中国流，反中国流」『湖畔の声』1973年6月号（695号），1973年6月1日，6～8頁。

清水安三「中日外交は慎重に」『湖畔の声』1973年7月号（696号），1973年6月1日，8～10頁。

清水安三「中国基督教の行くえ」『湖畔の声』1973年8月号（697号），1973年8月1日，8～10頁。

清水安三「中江藤樹と切支丹宗」『湖畔の声』1973年10月号（699号），1973年10月1日，7～10頁。

#### 【1974年】

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種①—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』1974年1月号（702号），1974年1月1日，5～8頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種②—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』1974年2月号（703号），1974年2月1日，4～5頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種③—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』1974年3月号（704号），1974年3月1日，4～5頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種④—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』1974年4月号（705号），1974年4月1日，5～6頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種⑤—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1974年5月号(706号), 1974年5月1日, 10~12頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種⑥—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1974年7月号(708号), 1974年7月1日, 6~9頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種⑦—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1974年8月号(709号), 1974年8月1日, 10~11頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種⑧—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1974年9月号(710号), 1974年9月1日, 10~11頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種⑨—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1974年10月号(711号), 1974年10月1日, 10~12頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種⑩—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1974年11月号(712号), 1974年11月1日, 12~13頁。

清水安三訳「日本の地に落ちた一粒のからし種⑪—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1974年12月号(713号), 1974年12月1日, 7~9頁。

#### 【1976年】

清水安三「日本の地に落ちた一粒のからし種⑫—“A Mustard Seed in Japan”」『湖畔の声』

1976年1月号(714号), 1976年1月1日, 6~8頁。

清水安三「ヴォーリス先生と私」『湖畔の声』1976年5月号(718号), 4~6頁。

清水安三「説教 妥協せず—ノーの一語」『湖畔の声』1976年8月号(721号), 1976年8月1日, 2~3頁。

清水安三「復活の近江兄弟社」『湖畔の声』1976年8月号(721号), 1976年8月1日, 20~21頁。

#### 【1977年】

黒田四郎「賀川豊彦と世界平和」(1)『湖畔の声』1977年1月号(726号), 1977年1月1日, 4~7頁。

#### 【1980年】

清水安三「ヴォリッさんを偲びて」『湖畔の声』1980年11月号(765号), 1980年11月1日, 8~9頁。

#### 【1983年】

黒田四郎「空前絶後の文書伝道者賀川先生」(三)『湖畔の声』1983年4月号(794号), 1983年4月1日, 10~12頁。

清水安三「ヴォーリス先生逸話」『湖畔の声』1983年10月号(800号), 1983年10月1日, 4~6頁。

清水安三「ヴォーリス先生の逸話」『湖畔の声』1983年11月号(801号), 1983年11月1日, 4~6頁。

## 【1985年】

清水安三「(株式会社) 近江兄弟社再建十周年お目出とう」『湖畔の声』1985年1月号(815号), 1985年1月1日, 4頁。

和田洋一「吉田悦蔵と戦争と平和」『湖畔の声』1985年8月号(822号), 1985年8月1日, 4～6頁。

## 【1986年】

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(1)『湖畔の声』1986年1月号(827号), 1986年1月1日, 12～17頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(2)『湖畔の声』1986年2月号(828号), 1986年2月1日, 6～9頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(3)『湖畔の声』1986年4月号(830号), 1986年4月1日, 14～17頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(5)『湖畔の声』1986年5月号(831号), 1986年5月1日, 14～20頁。

金子益雄「敵を愛せよ」『湖畔の声』1986年6月号(832号), 1986年6月1日, 2～3頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(5)『湖畔の声』1986年6月号(832号), 1986年6月1日, 16～20頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(6)『湖畔の声』1986年7月号(833号), 1986年7月1日, 6～10頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(8)『湖畔の声』1986年8月号(834号), 1986年8月1日, 14～15頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(8)『湖畔の声』1986年9月号(835号), 1986年9月1日, 16～20頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(9)『湖畔の声』1986年10月号(836号), 1986年10月1日, 16～18頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(10)『湖畔の声』1986年11月号(837号), 1986年11月1日, 16～20頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—大陸に架ける虹」(11)『湖畔の声』1986年12月号(838号), 1986年12月1日, 11～14頁。

## 【1987年】

塚本助太郎「人生回り舞台—第二部 戦後総集編①」(12)『湖畔の声』1987年4月号(842号), 1987年4月1日, 8～11頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—戦後総集編②」(13)『湖畔の声』1987年5月号(843号), 1987年5月1日, 14～18頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—戦後総集編③」(14)『湖畔の声』1987年7月号(845号), 1987年7月1日, 16～18頁。



塚本助太郎「人生回り舞台」(15) 『湖畔の声』1987年8月号(846号), 1987年8月1日, 18~20頁。

塚本助太郎「人生回り舞台」(16) 『湖畔の声』1987年9月号(847号), 1987年9月1日, 13~18頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—戦後総集編⑥」(17) 『湖畔の声』1987年10月号(848号), 1987年10月1日, 17~20頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—戦後総集編⑦」(18) 『湖畔の声』1987年11月号(849号), 1987年11月1日, 17~19頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—戦後総集編⑧」(19) 『湖畔の声』1987年12月号(850号), 1987年12月1日, 21~22頁

#### 【1988年】

塚本助太郎「人生回り舞台—戦後総集編⑨」(20) 『湖畔の声』1988年1月号(851号), 1988年1月1日, 11~14頁。

清水安三「ヴォリッさんを偲びて(再録)」 『湖畔の声』1988年2月号(852号), 1988年2月1日, 12~13頁。

奥村直彦「清水安三先生追悼」 『湖畔の声』1988年2月号(852号), 1988年2月1日, 13頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—戦後総集編⑩」(21) 『湖畔の声』1988年2月号(852号), 1988年2月1日, 18~20頁。

塚本助太郎「人生回り舞台—人生余録編」(22) 『湖畔の声』1988年3月号(853号), 1988年3月1日, 11~14頁。

#### 【1989年】

田中伊佐久「伝道生活五〇年の回顧」(一) 『湖畔の声』1989年9月号(871号), 1989年9月1日, 8~9頁。

田中伊佐久「伝道生活五〇年の回顧」(二) 『湖畔の声』1989年10月号(872号), 1989年10月1日, 9~9頁。

大谷恒彦「『イザヤ書』と『国家の理想』—矢内原事件をめぐる—」 『湖畔の声』1989年12月号(874号), 1989年12月1日, 14~17頁。

#### 【1990年】

山崎宗太郎「私の出会った人びと(七)—中島重①」 『湖畔の声』1990年1月号(875号), 1990年1月1日, 5~7頁。

大谷恒彦「『イザヤ書』と『国家の理想』—矢内原事件をめぐる—」(二) 『湖畔の声』1990年1月号(875号), 1990年1月1日, 8~10頁。

山崎宗太郎「私の出会った人びと(八)—中島重②」 『湖畔の声』1990年2月号(876号), 1990年2月1日, 5~7頁。

山崎宗太郎「私の出会った人びと(九)—中島重③」 『湖畔の声』1990年3月号(877号), 1990年

3月1日, 4～7頁。

山崎宗太郎「私の出会った人びと(十)一片山哲①」『湖畔の声』1990年4月号(878号), 1990年4月1日, 5～7頁。

山崎宗太郎「私の出会った人びと(13)一片山哲④」『湖畔の声』1990年7月号(881号), 1990年7月1日, 6～8頁。

三島甫「『外なる戦・内なる戦』(1)『湖畔の声』1990年12月号(886号), 1990年12月1日, 6～8頁。

#### 【1991年】

三島甫「『外なる戦・内なる戦』一矢内原教授東大追放五十年記念講演」(2)『湖畔の声』1991年1月号(887号), 1991年1月1日, 4～5頁。

三島甫「『外なる戦・内なる戦』一矢内原教授東大追放五十年記念講演」(2)『湖畔の声』1991年2月号(888号), 1991年2月1日, 2～5頁。

#### 【1992年】

奥村直彦「ヴォーリズの愛国思想—三つの思想類型を中心に」①『湖畔の声』1992年8月号(906号), 1992年8月1日, 14～17頁。

奥村直彦「ヴォーリズの愛国思想—三つの思想類型を中心に」②『湖畔の声』1992年9月号(907号), 1992年9月1日, 14～17頁。

#### 【2005年】

久保田暁一「先賢に学ぶ(連載①)—清水安三師(その一)」『湖畔の声』2005年1月号(1055号), 2005年1月1日, 7～9頁。

久保田暁一「先賢に学ぶ(連載②)—清水安三師(その二)」『湖畔の声』2005年2月号(1056号), 2005年2月1日, 7～9頁。

久保田暁一「先賢に学ぶ(連載③)—清水安三師(その三)」『湖畔の声』2005年3月号(1057号), 2005年3月1日, 7～9頁。

#### 【2008年】

木村晟「ヴォーリズ門下の人々(6)—木村弼美の真理と信仰」『湖畔の声』2008年4月号(1094号), 2008年4月1日, 7～9頁。

#### 【2009年】

加山久夫「兄弟愛社会の構築へ—賀川豊彦とヴォーリズをつなぐもの」『湖畔の声』2009年4月号(1106号), 2009年4月1日, 10～11頁。

木村晟「ヴォーリズ門下の人々(17)—清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年4月号(1106号), 2009年4月1日, 12～14頁。

加山久夫「兄弟愛社会の構築へ—賀川豊彦とヴォーリズをつなぐもの」『湖畔の声』2009年5月

- 号 (1107号), 2009年5月1日, 10~11頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(18)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年5月号 (1107号), 2009年5月1日, 12~14頁。
- 加山久夫「兄弟愛社会の構築へ―賀川豊彦とヴォーリスをつなぐもの」『湖畔の声』2009年6月号 (1108号), 2009年6月1日, 10~11頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(19)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年6月号 (1108号), 2009年6月1日, 12~14頁。
- 加山久夫「兄弟愛社会の構築へ―賀川豊彦とヴォーリスをつなぐもの」『湖畔の声』2009年7月号 (1109号), 2009年7月1日, 10~11頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(20)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年7月号 (1109号), 2009年7月1日, 12~14頁。
- 加山久夫「兄弟愛社会の構築へ―賀川豊彦とヴォーリスをつなぐもの」『湖畔の声』2009年8月号 (1110号), 2009年8月1日, 10~11頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(21)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年8月号 (1110号), 2009年8月1日, 12~14頁。
- 加山久夫「兄弟愛社会の構築へ―賀川豊彦とヴォーリスをつなぐもの」『湖畔の声』2009年9月号 (1111号), 2009年9月1日, 10~11頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(22)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年9月号 (1111号), 2009年9月1日, 12~14頁。
- 加山久夫「兄弟愛社会の構築へ―賀川豊彦とヴォーリスをつなぐもの」『湖畔の声』2009年10月号 (1112号), 2009年10月1日, 10~11頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(23)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年10月号 (1112号), 2009年10月1日, 12~14頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(24)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年11月号 (1113号), 2009年11月1日, 12~14頁。
- 木村晟「ヴォーリス門下の人々(25)―清水安三の祈りと教育」『湖畔の声』2009年12月号 (1114号), 2009年12月1日, 12~14頁。

(了)

【附記】この作業の過程において、近江八幡市立図書館・滋賀県立図書館、また京都府立図書館のお世話になった。記して感謝を申し上げる。また目録中にある記事の入手が困難な場合は、編者まで連絡されたい。

525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学経済学部内 (E-mail: kanemaru@ec.ritsumei.ac.jp)。